
ゼロ辞典

尋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロ辞典

【Nコード】

N1940M

【作者名】

尋

【あらすじ】

「魔王陛下のヒマ潰し」「魔王陛下の観光旅行」「魔王陛下の雑談」「魔女見習いより紫眼の魔族へ」など。

各話の根底を流れるゼロ・シリーズの世界観を補足する為に作られた項目です。

年表（前書き）

下に行くほど新しくなります。

年表

(下るほど新しくなります)

未明時代

詳細不明。

怒りの日

詳細不明。

他審判の日、ハルマゲドン、ラグナロク等名称は様々だがこの日「何か」が起きたらしい。

暗黒期の幕開けとなった日。

暗黒期

出生率の低下、生存率の低下、環境の悪化、文明の衰退、地質変動等。

この時代以前の記録は現在殆ど残っておらず、【遺跡】にごく僅かに当時の様子が残っているのみである。

黎明期

後に第零世代と呼ばれる人類の新世代が誕生。

その中から最も優れた七人が集い、人類はここから復興を始める。なおこのわずか七人の集団の名を「レギオン」と呼ぶ。

@『懐かしき日々』

魔法陛下の雑談に収納。 気が向いたら更新

創世期

【レギオン】によるテラフォームが成功し、人類の生活水準、生存率が飛躍的に向上する。

この時期に開発された代表的なものに【永久時計】【世界樹】ゆるぐしらじゐ【魔法】などがある。

涙の日

【レギオン】の中核たる人物が不慮の事故によって死亡。

その後【レギオン】はその活動を停止し解散。同時に彼らを失った人類の文明のレベルも急速に衰退する。

空白期

これ以前の事は記録にない。

・
・
・
・

現代

@『魔女見習いより、紫眼の魔族へ』（スピンオフ）

人類史上最高にして最強の魔女と謳われたバーバラの物語。
更新は後回し。内容はシリアス。

・デュラン魔王就任

@『——』編（スピンオフ）

現在未執筆。

観光旅行が終わったら取りかかる予定。内容はシリアス。

・本編第一部

@『魔王陛下のヒマ潰し』（スピンオフ）

突如として魔界へ召喚された「オレ」が魔王相手に奮闘しない話。
完結済み。

@『魔王陛下の観光旅行』（スピンオフ）

前作『ヒマ潰し』の続編。現在連載中。

・本編第二部

・本編第三部

・
・
・
・

用語辞典：人間界編（前書き）

まだまだまとめ中

用語辞典：人間界編

ゼロ・パーツ（ぜろ・ぱーつ）

紫眼に黒髪を持つ存在。

これが誕生すると必ず魔界の門が開き、魔王との戦乱期に突入することから「戦乱の忌子」などと呼ばれ、一時期は生まれてすぐに殺される事も多かった。

現在は人間側から魔王への対抗手段の一つだと判明しており、DDが保護監視下に置く事が伝統となっている。

人間の限界を遥かに超えた高い魔力と身体能力を宿し、大きく分けて一次と二次の二段階に分けて成長する。

@裏話：本編のキーパーソン。ゼロシリーズの名前はここからきています。

DDD（——）

傭兵派遣を主体とする法人。

何処の国家にも属しておらず、戦闘員の構成は外部入社と遺伝子選抜によって当初からDDDで育成される内部育成とに大きく分けられる。

各戦闘員はランクごとに分けられ、最高峰をマスターと呼ぶ。

なおその職務の性質上、所属員の平均寿命は極めて短い。

@裏話：本編の主な舞台。主人公連中の所属先がここ。

ユルグシラドル（世界樹）

世界の中心にそびえたつ柱のような建造物。

噂によれば別の世界まで続いているとも言われている。

この内部区画を中央と呼び、各大陸へのエネルギー供給を行っている永久時計もこの内部に安置されている。

ロストテクノロジーの一つ。

四陸一群（よんろくいちぐん）
セントラ ノーストリア イースティア ウェスバシア シザリオン
中央大陸、北大陸、東大陸、西大陸の四大陸に南諸島群を加えた世界の各地方の総称。
それぞれの大陸および諸島群には独自の風土と気候、そして政治形態が存在する。

オートマタ

人型機械の総称。主な用途は介護や危険作業等。
法律上その安全基準や製造方法、用途については制限があり人間に酷似した物にはオートマタであることを示すタグを付ける事が義務付けられている。

狂戦士（べるせるく）

亜人種。絶滅危惧指定種。
戦闘中はどれだけダメージを負ってもけっして死なず、倒れず、戦い続けるというその性質から傭兵として重宝され、数々の戦場に引き出された結果数を減らして現在は絶滅の危機に瀕している。
現在はレト山脈以北、北限結界の内にある【聖地】に僅かに二十匹程生存する。
稀に先祖がえりを起こし、人間の間から生まれるケースもごくまれに存在する。

阿修羅王（あしゅらおう）

夕日色の髪に深紅の瞳をもつ狂戦士の長。
全ての狂戦士はこの長を守護する為に存在するとの説もある。
かなめいし
北限結界の要石であり、北の大門の番人として世界を守る守護者でもある。

北限結界（ほくげんけつかい）

ノーストリアのレト山脈以北を覆う結界の事。これを維持するのが阿修羅王の役目の一つ。

この内側を聖地と呼び、禁足地となっている。

北の大門（きたのたいもん）

魔界に通じる唯一の門。

ゼロ・パーツの出生に関係なく魔界へ向かう方法としてはこの門を潜るより他にないとされている。

ただし門を開く為には守護者たる阿修羅王の許可が必要であり、逆に魔界側からの侵攻を抑えるのも阿修羅王の役目の一つである。

先天性魔力欠損症候群（ムデイル）

生れつき魔力を体内に貯める機能に欠損が出来る病の事。

それゆえ魔法が仕えず、また魔法による治療を受け付けない。

ジパング人のみに発症し、その発症率は数百万人に一人。症例が少ない為研究が遅れている。

身体障害の一種とみなされているが、多くの障害に対し治療法が対処法が発見されている現代でも、この病についての対策は未だ一切確立されていない。

罹患者はマナレス（魔力欠損者）と呼ばれて国への登録が義務付けられ、成人後も保護監察者がつく。

またその就労についても一定の規制がしかれている。

これはいつ魔界との戦闘が行われるか分からない現状で、戦闘能力が低く緊急時の魔法治療を受け付けない彼らを、上位意思決定機関に置く事はあまりにリスクが高い為である。

ただしこの規制が就学・就業における差別や住居差別、或いは知能欠陥者であるとの誤解を産んでいる。

永久時計（えいきゅうどけい）

正確な実態は「永久機関」。

すなわち外部から力を加えずとも永遠に運動を続ける装置であり、常に外に向かって必要量と同量のエネルギーを放出し続ける装置である。

ユルグシラドルと同等期に作成されたと思われ、ユルグシラドル内部に安置されている。

その詳しい原理は不明だが、その特性から各大陸におけるエネルギーのほぼ百パーセントがこの永久時計によって賄われている。管理者は双神子。

双神子（ふたつみこ）

ユルグシラドルの管理者にして、全人類の象徴とも言えるべき存在。その詳細は謎に包まれている。

デュランの言葉によれば、どうやら歴代の双神子が存在しく「二人で一つ」であり、どちらか片方が欠けてももう一方は成立しない存在のようだ。

用語辞典：魔界編（前書き）

随時追加予定

用語辞典：魔界編

白銀狼（セイリオス）

白銀の毛並みに金の瞳、白き翼を背に持つ狼の形をとるドラゴンの一族。蒼氷の里と呼ばれる万年雪に閉ざされた隠れ里に住む希少種でもある。

忠誠心が高く、一度主を決めると生涯その主人に仕え続ける性質がある。

彼らを従僕とする事が貴族では一種のステータスとなる。

歴代の聖王近衛主任の座もこの白銀狼が務めるのが伝統。

はぐれ

セイリオス特有の単語。

聖王（せいおう）

人間の呼ぶ所の魔王。

魔界で最も強大な魔力を持つ者へ与えられる称号であり、全ての魔族の王とされる。

古式では先代を殺傷しえた者がその座を継いでいたが、近年では四大卿の各族の持ち回り制となっていた。

就任には公示と呼ばれる四大卿からの承認が必要である。

就任後は地の座と呼ばれる王宮に住む事が許される他、様々な特権が与えられる。

主な職務は魔界の安定と、各種族間、血族間の問題の解決、そして侵攻してくる人間から魔族を庇護する事などが期待される。

@現聖王はディアヴォロス・デュラン。

@セシエンの言によれば、初代聖王の名もデュランと言つらしい。魔界で最もポピュラーな名だとか。

聖王近衛主任

聖王専属の近衛部隊を統括する、いわば聖王の軍事力の要であり纏め役。

聖王に対する絶対的な忠誠心、混交種族をまとめる才覚、そして個人の武力と資質が問われる。

伝統的にセイリオス族の最も優秀な個体がこの地位を務めている。

なお、その忠誠心故に聖王交代の時に同時に引退、或いは死亡する為に歴代の王と共に入れ替わりが生じている。

@現在この地位は公的には空白。非公式にはセシェンが勤めている。

@先代はサキアス。セシェンの実の兄。

公示

新聖王就任の際に必要な儀式。

主に二つの段階に分かれ、第一段階は四大卿と新聖王の対面、及び四大卿全員による聖王の正当性の承認。

第二段階は聖王就任の知らせを全魔族に向けて行う事。

これを経ずして聖王とは成れず、前聖王が死亡している場合でもこの公示が行われるまでは王座は空白扱いであり、いたずらに王を名乗った者は偽王として魔界全土での討伐対象とされる。

@デュランはこれもやや変則的な方法で押し通している。詳しくは「○○○○編」にて掲載予定

種―属―族

あまた存在する魔族の分類方法。一番大きな括りから種、属、族となる。

なお、属については実質的にはドラゴン属とスライム属のみを区別する為に使われている。

前者については圧倒的なその力の為、後者はあまりに細分化された事とその数の多さゆえの別格扱いである。

五種

魔族を区切る最も大きな括りの事。体表を覆う中で最も面積の広いものをもって分類する。
すなわち、毛皮に覆われる獣種。鱗におおわれる鱗種。羽毛に覆われる翼種。硬い殻で覆われる鎧種。その他にあたる白種の五種である。

四大卿

五種の内鎧種を除く四種のトップを担う族の当主によって構成される一大勢力。

すなわち獣種トップのベエマス族当主。鱗種トップのレビタヤン族当主。羽種トップのジズ族当主。白種トップのヴァンパイア族当主の四名で構成される。

主な業務は聖王の選定、承認、罷免。そして王不在時は王に代わって力の行使をする事。

立場的には聖王と同等であり、ある面では聖王を上回る権限を持つ。現在のメンツは順にベルセラ、リゼライ、ジーニス、ヴィスカスの四名。

ファーヴニル

鎧種の頂点に存在するドラゴン種の高位魔族。

種の頂点にある魔族の中で唯一政治に不干渉を貫き、遺跡近くの辺境にひっそりと同種のみで集落を形成して暮らしている。

ドラゴン種の括りの中でもぬきんでた実力を持ち、その黒色の外貌から白き竜セイリオスとならび黒き竜として名を馳せている。

地の座

遺跡

秋の館、秋離宮

ハーフ

ドラゴン

スライム

孤高の門

蝕

人物事典：人間界編

ナカバ・マサキ

正木・半。十四歳の学生。自称「基本遠慮深い性格」の持ち主。

小柄でやせ細った体格だが、中に詰まった負けん気は人一倍。

父、母、弟の四人家族であり、父方の祖父の「サブローじいちゃん」はジパング人の血筋。

自他共に認める「じいちゃん子」。

好きな食べ物は基本的に何でも。ただしにおいが独特な物は苦手（Ex・納豆）

祖父と同じくジパング人に稀に発症する「先天性魔力欠損症」の保持者。

リミュリシエル・ミルフィリア

十四歳学生。中央大陸南三区セントラの魔法技官候補生。

ナカバはリムりんと呼び、彼女はナカバをナカちゃんと呼んでいる。平均的な身長にEカップの胸、細く長い手足、蜂蜜色の緩く巻いた髪をしている。

ナカバいわく、「トリプルAランク」の美少女。天使の微笑み標準装備。

名門ミルフィリア家の生まれであり、大変な努力家。

過去に色々あって、現在は大の男嫌い。

ナカバのことは過去は一方的に嫌っていたが、今は愛情をもって接している。

ヴィクトリア・ミシディア

十五歳学生。中央大陸南三区セントラの刀指揮官候補生。

ナカバはヴィーたんと呼び、彼女はナカバをナカ吉と呼んでいる。

女性にしては高めの一七〇を超える身長、Cカップ。

実家は酒屋。いわゆる天才肌の少女。

アッシュブルーの髪を型の高さで揃えている。

ナカバいわく「お姉様系の美女」。下級生（特に女子）に良くもてるらしい。

当人としては年上の男性が好き。

アドルフ

十七歳、DDDセントラル勤務。第二一八班班長。

ピンク色の髪と瞳、赤銅色の肌からついたあだ名がアポロ。

ただし当人はその名前を良しとしてないらしく、毎回律儀に訂正している。

（ナカバ相手には半分あきらめている節も見られるが……）

アイスブリンガーの使い手。

内部結束の固いDDDでも有名なほどの家族馬鹿^{おやばか}。

年下の相手を撫でる癖がある。（ただし家族は例外なくこの洗礼を受ける）

デイジー・イーニツグウッド

SENNSESの代表取締役。

腰まである豊かな黒髪につり上がり気味の赤い瞳。

身長は一九〇を超えている上にハイヒールを履くので実質二メートル近くなる。

デュランには「感謝しても仕切れない程の借りがあるのよ」との事。デザイナーとしての才能もあり、デュランが人間の側へ来た際に着用している服は全てデイジーの作品。

常に身边になぞの黒服集団をつれて歩いている（実態は秘書）。ちなみに既婚者。

人物事典：魔界編（前書き）

時と場合に合わせて更新中

人物事典：魔界編

ディアヴォロス・デュラン

出身不明。紫の瞳を持つ魔族の王（【聖王】）。

先代魔王を殺害し、王位を篡奪したのち【四大卿】の承認を得て聖王の座に就く。

過去の経歴は一切不明。種族は【ディアヴォロス】と当人は名乗っているが、ディアヴォロス族では過去に該当する者が居た形跡は無く、また中位魔族にしては所蔵魔力量があまりに膨大過ぎる為、実際は別の種族か【ハーフ】ではないかとの推測がされている。

公の場に姿を現す事を好まず、【公示】において姿を現した以降は殆ど領土内に引き籠り姿を隠している。

また、就任後暫くしてから身の回りに仕える魔族をすべて解雇し、【地の座】を引き払って【秋の館】に居を移していることから死亡説も流れているが、四大卿はこれを否定している。

醜悪すぎるその容姿は魔族の中でも有名で、現在もそのあまりの醜さにトラウマを抱える者も多い。

セイリオス・セシエン

セイリオス

【白銀狼】の青年。【聖王近衛主任】。

人化の際は銀の髪に金色の瞳をした若い青年の姿を取る。執事服着用は主の意向故。

ただし、近衛主任への就任については非公式に執り行われた為、大半の者はこの事を知らない。

その立場故に同時に王城周辺の守護者の任も兼任している。

典型的白銀狼気質の持ち主で、主人たるデュランに仕える事を心から誇りに思っている。

デュランに面と向かって意見出来る数少ない魔族の一人。

セイリオス・ソラリス

セイリオス
白銀狼の青年。前聖王近衛主任。

白銀狼の中で最も優れた者の名をほしいままにしており、婚約者を持つ身であつたが職務中に死亡する。

セシェンの実の兄に当たる。

ヴァンパイア・ヴィスカス

【白種】の頂点であるヴァンパイア族を束ねる若き当主。四大卿の中では最若年。

人化の際は金色の髪に深紅の瞳をした豪奢な容姿の青年の姿を取る。独自の美学を持っており、現聖王デュランの事を「我が君」と呼んで絶対の服従を誓っている。

ただし心酔の度合いが著し過ぎて若干デュランには鬱陶しがられている。

デュランの血、【血珠^{けつじゆ}】を受けている為に異様なほどの生命力と再生能力を持ち、その体は塵にされてなお復活すると言われている。

ヴァンパイア・ヴィヴィアン

四代前の聖王。

ヴァンパイア族の特徴である豪奢な金の巻き毛と紅い瞳をもった女王。

地の座の周囲に春夏秋冬の四つの館を建てた。

ヴァンパイア・ヴァネッサ

四大卿ヴィスカスの妹姫。ヴィスカスは「マリポーサ」と呼んでいる。

上級貴族に相応しい魔力量の持ち主だが幼体には負担が大きく、興奮すると咳が酷くなる。

美しく優雅で強い兄に憧れをもっており、己自身にも「常に貴族たれ」と課している。

その一方で甘やかされて育ったためわがままで子供っぽい一面もある。

ベエマス・ベルセラ

【獣種】の頂点であるベエマス族を束ねる当主。他の四大卿リゼライ、ジーニスとは幼馴染。

人化すると桃色の髪に浅黒い肌、砂色の瞳をした豊満な肢体の若い美女の姿となる。

現聖王デュランに対しては反発を覚えると同時に、惹かれている事も自覚しており少々複雑な思いを向けている。

ややワガママで自己中心的な面もあるが四大卿として、或いは貴族としての矜持は高い。

従者として良く同じ獣種の貴族アメミット・アギトを連れている。

レビタヤン・リゼライ

【鱗種】の頂点であるレビタヤン族を束ねる当主。他の四大卿ベルセラ、ジーニスとは幼馴染。

人化すると藍色の髪に錆色の瞳をした、逞しい肢体の壮年の男の姿になる。

現聖王については割合寛大だが、特に愛着も無い（「女じゃねえなら興味ねえし」との事）。

普段はだらけた姿を晒し、良い女に目が無いがその半面曲者ぞろいの鱗種の舵を取る切れ者の一面も。

強大な力を持つ貴族の一人だが、ベルセラだけではどうしても敵わない。

鱗は剥がしてもすぐに生え代わる。

ジズ・ジーニス

【羽種】の頂点であるジズ族を束ねる当主。他の四大卿ベルセラ、リゼライとは幼馴染。

人化すると苔色の髪に若草色の瞳、病的なまでに白い肌をした幼い少年の姿になる。

現聖王デュランが王座を篡奪しなければ聖王の座についていたはずの者だが、本人はあまり気にしていない。

ベルセラとリゼライよりは若干年上であるので、主に二人の喧嘩がヒートアップした際の收拾役的立場にある。

非常な偏食家で、うさにん好き。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1940m/>

ゼロ辞典

2011年9月11日00時31分発行